

JMOOC 講座

1. 概要

インターネットを利用したオープン教育は、学生に対する学修補助効果、教育の質の向上が期待されるだけでなく、「大学の知」を社会に還元する社会貢献にもつながるものであり、本学の新たな「価値」「意味」を創出する役割を担うと考えられる。また、国内のみならずグローバルに本学の知名度を高める広報効果が期待できる。

本学は 2014 年度より日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）に加盟し、JMOOC 公認配信プラットフォーム「gacco」にて毎年 1～2 講座を開講してきた。2022 年度は 2 講座を JMOOC 公認プラットフォーム「gacco」にて開講した。

2. 利用状況

(1). 開講講座情報

講座①

講座名：AI とメタバースの現在地と未来

講師：人工知能科学研究科

内山泰伸 教授・瀧雅人 准教授・三宅陽一郎 特任教授

開講期間：2023 年 1 月 17 日（火）～3 月 20 日（月）

反転授業：2023 年 2 月 18 日（土）14:00～16:00

受講登録者数：2,616 名

受講修了者数：645 名

修了率：24%

反転授業参加者：16 名



図 1：講座①コースカード

講座②

講座名：DX 変革リーダー・エッセンシャルズ

提供元：ビジネスデザイン研究所（斎藤明 教授 担当）

開講期間：2023年2月17日（金）～3月10日（金）

受講登録者数：1,232名

受講修了者数：497名

修了率：40%



図2：講座②コースカード

※本講座はビジネスデザイン研究所による文部科学省委託事業（「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」）「DX 変革リーダー育成プログラム」の一環で開講されたものである。

(2). 反転授業（「AI とメタバースの現在地と未来」）

講座①「AI とメタバースの現在地と未来」については、2023年2月18日（土）に池袋キャンパスにて反転授業を行った。当日は16名が参加し、人工知能科学研究科の紹介、TAによるChatGPTについての紹介、講師陣への質問、グループ討議・発表を実施した。講師陣への質問コーナーでは活発な質疑応答が行われており、参加者の意欲の高さがうかがえた。

授業後に任意参加で最先端の没入型VR機器体験を実施したところ、ほとんどの参加者が残り、その場でも講義内容や人工知能科学研究科に関する質問が講師陣に寄せられていた。

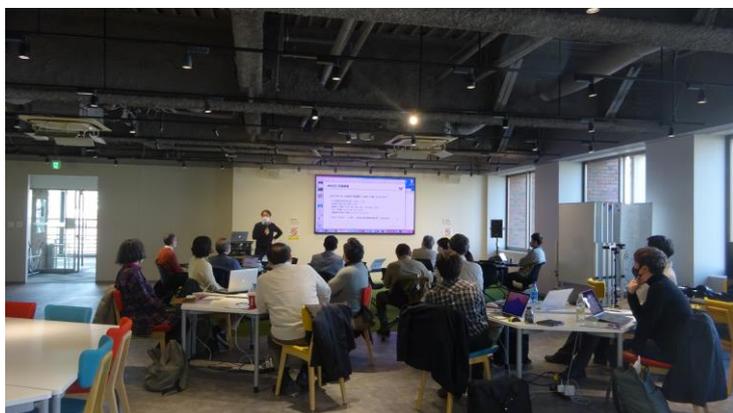


図3：反転授業の様子

(3). アンケート集計（「AI とメタバースの現在地と未来」）

メディアセンターにて開講支援を行った講座①「AI とメタバースの現在地と未来」について、JMOC 配信プラットフォームを運営している株式会社ドコモ gacco から提出された「受講状況等各種集計結果と受講者からのアンケート結果についての分析報告書」より一部抜粋する。

① 「AI とメタバースの現在地と未来」受講状況

	受講者数	ディスカッションスレッド数	修了率
AIとメタバースの現在地と未来	2,674	12	24%
gacco講座平均 (2021年度平均)	2,287	49	15%

② 「AI とメタバースの現在地と未来」性年代別受講状況

	男性							女性							その他
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
受講登録数	31	159	199	328	441	345	203	18	85	126	179	182	54	21	303
受講登録構成比	1.2%	5.9%	7.4%	12.3%	16.5%	12.9%	7.6%	0.7%	3.2%	4.7%	6.7%	6.8%	2.0%	0.8%	11.3%
他講座平均	1.6%	9.6%	12.1%	13.5%	11.0%	6.3%	2.8%	3.2%	5.2%	5.6%	5.7%	4.1%	1.3%	0.3%	17.6%

③ 「AI とメタバースの現在地と未来」アンケート結果（抜粋）

職種（受講前）

カテゴリ	実数	%
01. フルタイム	710	65.8%
02. パートタイム、アルバイト	87	8.1%
03. 専業主婦（夫）	29	2.7%
04. 無職	172	15.9%
05. 小学生	0	0.0%
06. 中学生	0	0.0%
07. 高校生	14	1.3%
08. 短大生・高専生・専門学校生	3	0.3%
09. 大学生	37	3.4%
10. 大学院生（修士課程）	12	1.1%
11. 大学院生（博士課程）	1	0.1%
12. 上記以外の学生	14	1.3%
回答数合計	1079	100.0%

本学との関係（受講前）

カテゴリ	実数	%
01. 立教大学の在學生である	11	1.0%
02. 立教大学の附属・系属校の生徒である	0	0.0%
03. 立教大学の卒業生である	19	1.8%
04. 立教大学に勤務している	2	0.2%
05. 立教大学を受験したい（または子供に受験させたい）と考えている	17	1.6%
06. 立教大学とはまったく関係がない	1030	95.5%
回答数合計	1079	100.0%

講座満足度（受講後）

カテゴリ	実数	%
01. 大変満足	245	49.3%
02. まあ満足	226	45.5%
03. やや不満	20	4.0%
04. 不満	6	1.2%
回答数合計	497	100.0%

オンライン学習で継続して学びたい分野（受講後）

カテゴリ	実数	%
01. 一般教養	332	29.1%
02. 直接仕事と関係のない分野の知識	214	18.8%
03. 最新のトレンドや動向	409	35.9%
04. 普遍的な哲学	164	14.4%
05. その他	21	1.8%
回答数合計	1140	100.0%
回答人数合計	497	

3. 2022年度のまとめ

2018年以降、本学 JM00C 講座の受講者登録数は年々減少傾向にあり、登録者数が2,000名を下回る状況が続いていたが、3年ぶりに2,500名を超える登録者数となった。また、文部科学省委託事業の一環で開講した「DX 変革リーダー・エッセンシャルズ」については、受講生の募集期間がなく、開講と同時に募集告知を行ったにもかかわらず、1,000名を超える登録者があり、同様の領域分野の講座や他省庁で公開しているコンテンツに比較すると多くの受講生を集めることができた。「AI とメタバースの現在地と未来」の受講前アンケートでは、受講動機として「“AI とメタバース” というテーマに興味があった」との回答が83.8%と一番多く、いずれの講座も「AI」「DX」という近年注目を集めているキーワードのテーマであったことが受講登録者数増加の要因であると考えられる。同講座の受講後アンケートでの自由記述でも、「最近の動向を理解できた」「なんとなく言葉だけ知っていた AI とメタバースについて深く理解できた」と、最新のトピックについて学べたことが良かったというコメントが多く目立った。

2022年度開講講座について、他に特筆すべき点としては、大学院提供の講座であったということも挙げられる。これまで本学では学部の講座を提供してきたが、2022年度は独立研究科の大学院からの講座提供となった。次年度も人工知能科学研究科の講座提供を予定しているが、本学の学部生が独立研究科の学びに触れられる機会にもなるため、学外への広報だけでなく、学内の学生に向けての講座周知も十分に行うように検討したい。